

はじめに

遠く欧米のまちについては旅行やテレビを通じて断片的に知っていても、お隣の韓国や台湾のまち並み、そこでの人々の暮らしがどうなっているかは、意外と知らないことが多いものだ。

私たちは、日本のまちづくりと韓国や台湾のまちづくりが互いにどのように影響を及ぼし合っているのかを知りたいと思い、2006年から現地を訪ね歩き始めた。そこで出会ったエネルギーあふれる人々に、私たちは圧倒されると同時に不思議と共感を覚えた。

この本に紹介されているすべての事例は、私たちが実際に現地に足を運び、そこに関わった地元の人から直接話を伺ったものだ。電車では到底行くことができないような場所にも、長距離高速バスに乗ったり、地元の人々の自家用車に数時間乗せていただいたりして何とか辿りついた。苦労して現地に到着すると、いつも地元の方は私たちを大いに歓迎し、手づくりの心温まる料理でもてなしてくださった。それは丸ごと大根を干しただけのたくわんのような素朴な食べ物から、とても手の込んだ地域の伝統料理までさまざまであった。彼らは地元自慢の料理と同じように、それぞれ違うスタイルで自分たちのまちを良くする取り組みを行い、それを誇りにしていた。多くの現場に足を運ぶ中で、

私たちはそこに共通する“何か”が「自分にあわせてまちを変えてみる力」であることを発見した。

日本と似ているようで何か微妙に違う、だけど共感できる韓国と台湾のまちづくりの根底に流れる「自分にあわせてまちを変えてみる力」。これは「みんなにあわせて」ではなく、「自分にあわせて」という部分がミソだ。

本書で何度も述べられているように、「自分にあわせてまちを変えてみる力」と「民主化」という概念は切り離すことができない。アメリカの民主化について深い洞察をしたトクヴィルは、民主化の進行過程では平等という概念の中で価値の同質化が進み、多数が力を持つ一方で、個人の力が失われることを指摘している。

このことを踏まえると、「自分にあわせて」まちを変えてみる行為は、韓国や台湾における民主化の進行と、これによる課題に立ち向かおうとする動きの双方が入り混じった運動だと位置付けることもできる。まちづくりの現場に流れこんできた大きな民主化の渦の中で、個人の中にある公共性にも光を当てていこうとする力が「自分にあわせて」という主体性を生み出している。

一方、「まちを変えてみる」行為は、実際に自分の身体

を動かして空間を変化させることや、制度を通じて空間の意味を変容させてゆく活動である。「まちを変えてみる」ことで生まれる現実の空間や仕組みの変化は、社会を変化させる力が自分にも備わっていることを教えてくれる。

本書では「自分にあわせてまちを変えてみる」さまざまなパターンを示している。どんな活動にも固有の価値があるからだ。本書を通じて、誰にも「自分にあわせてまちを変えてみる力」が備わっていて、「自分にあわせて」「まちを変えてみる」ことが、社会を動かす原動力になることが伝われば何よりである。

2016年2月

共著者を代表して 秋田典子

参考文献：トクヴィル 著・岩永健吉郎 訳『アメリカにおけるデモクラシーについて』中央公論新社、2015

はじめに 2
もくじ 4

第1章
自分にあわせてまちを変えてみる力

1 8
アジアの地図をやわらかい頭で見よう

2 11
隣りの国を見に行こう

3 12
「自分にあわせてまちを変えてみる力」を発見しよう

4 14
少しズレた世界から学ぼう

5 16
「自分にあわせてまちを変えてみる力」を信じて
まちづくりを進めよう

6 18
身のまわりの環境の小さな民主化を進めよう

7 20
この本のつくり

第2章
デザインカタログ

テーマ1 まちのカスタマイズ
Customizing Our Town

都市の「手づくり」デザイン 26

小さな公共交通 28

ギャラリー商店街 30

壁にこだわる 32

一時的な都市のすき間で 34

テーマ2 まち・社区・マウル
Community, Community, Community

そのままゲートッドコミュニティ 38

引越し好き社会のコミュニティ 40

学びからはじまる健康づくり 42

屋台のおばちゃんを助ける商店街 44

健康コミュニティ 46

情熱のPR作戦 48

テーマ3 生活と人生のデザイン
Design of Life

マダンでどこでもパーティー 52

自分の手で家を直そう! 54

若者たちのたくましい選択 56

地域に幹を立てる 58

自分のためのお店をつくる 60

テーマ4 由緒と名物
Origins and Traditions

地域の由来を掘り起こす 64

何でも資源に 66

観光資源になったカエル 68

まちづくり土産をつくろう 70

工芸品で美意識向上 72

テーマ5 環をつくる
Creating Environments

地域で何を見つけるか 76

あらゆる手段で環境を守る 78

里山保全によりつながるまちづくり 80

小さな緑の養子縁組 82

第3章
「自分にあわせてまちを変えてみる力」
をめぐるダイアログ

ダイアログ1 87
見ているものを異なるスケールで見返してみる
石川 初さん 慶應義塾大学大学院教授

ダイアログ2 93
都市の『工夫と修繕』
加藤文俊さん 慶應義塾大学教授

ダイアログ3 99
アノニマスな都市空間を読む
青井哲人さん 明治大学准教授

ダイアログ4 105
D.I.Y.アーバニズム
山代 悟さん ビルディングランドスケープ共同主宰

解説 112
韓国・台湾での事例がなぜ「違って」見えるのか?

第4章
マウル・マンドゥルギ、社区総体营造、
そして日本のまちづくりの歴史

1 118
なぜ「自分にあわせてまちを変えてみる力」が
マウル・マンドゥルギと社区総体营造の中で
発展したか

2 119
韓国のマウル・マンドゥルギ略史

3 126
台湾の社区総体营造略史

4 135
日本のまちづくり略史

5 142
小さな民主化を支える制度的な環境

歴史を理解するキーワード

都市化 125

台湾の少数民族 134

民主化 141

台湾と日本の交流 144

年表 146
マウル・マンドゥルギ、社区総体营造、まち
づくり年表

おわりに 150
プロフィール 152

テーマ1

まちのカスタマイズ…………… p.25～

テーマ2

まち・社区・マウル…………… p.36～

テーマ3

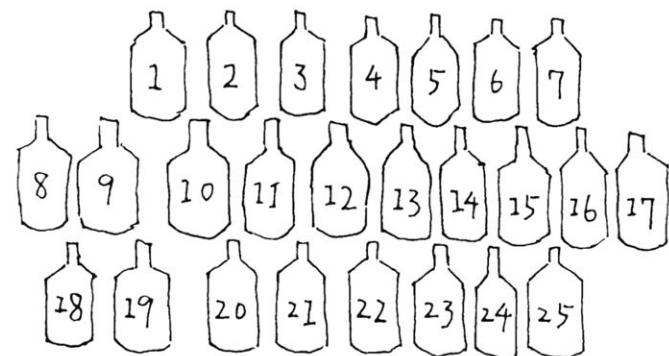
生活と人生のデザイン…………… p.51～

テーマ4

由緒と名物…………… p.63～

テーマ5

環をつくる…………… p.75～



テーマ1

まちのカスタマイズ

Customizing Our Town

カスタマイズとは、使う人の好みや使いやすさに合わせて、服や自動車といった既製の製品の機能や外見を変えてしまうことを指す。ここにまとめるのは、人々がまちの中で「自分にあわせてまちを変える力」を存分に発揮し、まちを思い思いにカスタマイズした5つのケースである。

『都市の「手づくり」デザイン』では都市の中のさまざまな空間を、『小さな公共交通』ではトロッコや自転車を、『ギャラリー商店街』では古きよき商店街を、『壁にこだわる』では住宅や街路の壁を、『一時的な都市のすき間で』では大都市の都心に一時的に現れた小さな空間を、それぞれカスタマイズした取り組みを紹介する。



台北市士林区芝山岩 in TAIWAN

コミュニティセンターには白鳥のパネルがぶら下がっていてまるで飛んでいるようです

本物っぽく見えますが、全部置物です。手づくりデザインに、動物モチーフがあちこちで使われています。道ばたには音符のデザインも。

川沿い公園の広場に埋め込まれた手づくりタイルによる参加型デザイン。

台北市雙溪河濱公園

in TAIWAN

台北市北投区吉慶里

in TAIWAN

台北駅のパネルです

おもちゃの新幹線がマンションとマンションの間を運行し、路地を彩ります。

URBAN “HANDMADE” DESIGN

都市の手づくりデザイン

◇デザイナーなしの都市デザイン

＝「手づくり」デザイン

都市を手づくりでデザインするってどういうこと？ そんなことできるの？ と思われるだろう。確かに、公共の空間はみんなのものであり、これまで主にプロの手でデザインされてきた。こういった公共空間のデザインを、日本語では「都市デザイン」と呼ぶ。この「都市デザイン」を積極的に行ってきた有名なところとして、日本では横浜市や世田谷区が挙げられるだろう。また、近頃では韓国・ソウル市は「デザイン都市」としての戦略をたて、都市デザインで都市競争力を高めようとしている。このように、公共空間の「都市デザイン」はプロが戦略的に手がける領域であり、手づくりで行われるものではなかった。

しかし、台湾・韓国の都市を見て回ると、公共空間のデザインに「自分たちのセンスの手づくりで参入しちゃえばいいじゃない！」という動きがあちこちで起こっていた。こういったことを、タイトルのように『都市の「手づくり」デザイン』と呼んでみることにし、ここではとくに台湾の事例に着目して紹介する。

◇コミュニティリーダーによる

手づくりデザイン

台北市のある地域では、コミュニティの拠点となる建物の屋根の上に奇妙な手

づくりデザインが施されている。まちの拠点にはなぜか空をはばたく白鳥のパネルが設置され、一緒に卵と巣のパネルまで設置されている。また、そのすぐ近くを歩くと、車の往来の激しい大通り脇の丘の上にバラバラに置かれたリアルなヤギの像が草をむしゃむしゃ食べている。なぜこのようなデザインが…？ と不思議に思ったのだが、話を聞いてみると、これは地域のコミュニティ・リーダーの趣味によるものらしい。この地域はそのほかにも、車がひっきりなしに通る広い道路の交差点のちょっとした広場を活用して、道路と緑地帯をさえぎる仕切りがあり、その仕切りはまるで音楽を奏でているように音符がおどるデザインとなっている。地域がリーダーの趣味による手づくりのデザインで埋め尽くされているのだ。これらの存在によって、なんだかよくわからない公共空間のデザインだけれども楽しい地域だと感じさせてくれる。

手づくり：地域の誇りづくり

参加型やリーダー型があれば、住民が協力し合って自分たちで手づくりする公共空間のデザインも増えていった。図中の例は、華やかな公共空間の手づくりデザインで有名になっている地域の例であ

る。この地域のとある路地では、住宅の間を手づくりデザインでつないでいる。とくに目を引くのは、住民の一人である引退した職人さんによってマンション間をまたいで敷かれたおもちゃの新幹線が走るような線路のある路地だ。あるマンションには台北駅を模したパネル、また隣りのマンションには高雄駅を模したパネルが設置されていて、その間を新幹線が行き来する。駅のパネルの脇にはロープウェイの模型まで設置されて、これまた精巧にくるくると動くのである。クリスマスのときには駅と線路とロープウェイ模型は、これでもかというほどキラキラの電飾で光る。

これらの手づくりデザインを見ようと、各地からこの路地を見物に来る人がやってきて、テレビのニュースでも取り上げられるほどの評判を呼んでいる。地元の人たちはこの手づくり感あふれる路地のデザインをたいへん誇りにしている。新幹線模型が何かの役立つ機能を持つわけでもなく、その地域の歴史とも何の関係もないデザインなのだが、むしろ新たな地域の特徴をつくり出して、外部の人たちも惹き付けている。これは、手づくりならではの独自性とキッチュさが魅力的なのだろう。（内田）

都市の「手づくり」デザイン